



平成25年 年頭のご挨拶



松井大悟

一般社団法人
日本非開削技術協会会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されました日本非開削技術協会（JSTT）の理念は、「ガス、下水道、水道、通信、電力などの地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、及び地下探査等に関する非開削技術の交流により、我が国の地下利用技術の進歩に貢献し、その安全性の向上を図り、広く公共の福祉に寄与する」ことです。さらに海外との交流を図り、非開削技術が世界中に普及することに貢献していくことも理念の大きな柱です。JSTTは設立以来24年におよぶ活動を続けてまいりました。平成21年より一般社団法人として新たな出発をし、6年目を迎えました。非開削技術普及などの公益事業を一層充実させ、公益法人への道を目指し努力をいたしたいと思っております。

昨年は東日本大震災の復興に大きな関心が寄せられました。しかし、その進捗ははかばかしくありません。例えば、下水道管路の被災延長は658 kmですが、昨年11月現在で復旧延長は269 kmにすぎません。他の公共施設も同様だと思われまます。いずれにいたしましても今回の災害の復旧に多くの会員の関与されております。各会員の今後の貢献とご活躍を祈念しております。

昨年の第23回非開削技術研究発表会では24件の応募があり、これを次の6部門に分けて発表して頂きました。地下探査技術、管洗浄・検査技術、管推進技術（理論・分析）、管更生・耐震・診断技術、管推進技術（開発・応用）、管推進技術（施工事例）です。非常に高度で多くの分野をカバーする貴重な論文集を発行することができました。これらの論文は全文ホームページに記載され、過去の論文を含め技術用語で検索できるようになります。また海外に発信するため、タイトル、著者名、アブストラクトを英文の電子情報でホームページに掲載し、英文のテクニカルタームで検索もできるようになります。今後はさらに設立以来の全論文を英文化して掲載し、会員の皆様の活動に寄与したいと思っております。

非開削技術の海外展開には、日本政府も力を入れていただきまして、ヴェトナム、インドネシア等でプロジェクトが進展しつつあります。しかしその展開には多くの知識とノウハウが必要です。昨年の7月には第19回の非開削技術講演会において、このテーマを取り上げました。基調講演で「下水道分野の国際展開」、

「アジアの水ビジネス」の2件、パネルディスカッション「我が国の非開削技術の海外展開、その課題と展望」で多くのパネリストの意見を聞くことができました。

国際非開削技術協会（ISTT）の分野につきましては、アジアの参加国として2010年中国、シンガポール、トルコが新たに加わり、従来の日本、香港、台湾、オーストラリアに加え7か国となりました。非開削技術の新たな展開がアジアにおいて始まろうとしている、その息吹を感じました。これらの国の中でシンガポール、トルコ、中国とJSTTとの間に技術の交流協定を締結しました。

会員の方々にこれらの国に関心のある方は是非ご連絡ください。一方世界においては2008年に、ブルガリア、2010年にコロンビア、2012年にルーマニアが加わり、現在27か国となっています。新規参加者は開発途上国で、インフラの遅れている地域の参加国が増えています。

一方日本の状況は、公共投資抑制の影響の結果、企業が新技術に対する投資に慎重になり、世界をリードしてきた日本の技術力が低下する懸念が生じています。これを取り戻すには、新たな市場が必要です。私は日本のこれからの非開削技術の市場はアジアにあり、そしてアジアの人々に寄与できる非開削の新技术が求められていると思います。

今年のISTTの国際会議と展示会はオーストラリアのシドニーで、9月に開催されます。アジアの一員ですし、アジアからも多くの人の参加が予想されます。関心のある方はぜひ参加してください。JSTTもオーストラリアの同協会と情報を交換し会員の皆様に提供します。ご要望を事務局までお知らせください。

日本におきましても、今年こそ、東日本大震災の本格的な復興がはじまる年であり、かつ震災を体験したことから、多くの社会インフラがその安全性・耐久性等の再検討が始まる年になっていきます。この面において環境にやさしい非開削技術の必要性はますます高まって行くものと考えております。本年が会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい飛躍の年としていただきますことを祈念して私の年頭のご挨拶といたします。